

# はしがき

本報告書は、平成16年度の補助金研究プロジェクト「東ティモールにおける日ASEAN協力」の成果を取りまとめたものです。

東ティモールは2002年にインドネシアから独立し、国際社会の支援のもと、国家建設が試みられてきました。東ティモールにおける国家建設の試みは、近年高まる破綻国家への支援のあり方を検討する上で重要な教訓を示すとともに、地域安全保障の強化に向けた東アジア地域の新たな動向を明らかにします。

日本を含む東アジア地域においては、安全保障にかかる地域的な枠組みが十分に発展していません。そのような環境にあって東ティモール独立問題は、域内の安全保障問題をいかに解決するかの試金石となりました。日本、オーストラリア、ニュージーランド、そしてASEAN諸国は、協同して東ティモールにおける平和維持・平和構築プロセスに関与してきました。地域的安全保障枠組み強化が望まれる東アジア地域において、東ティモール独立問題に際して示された地域諸国の協力は、積極的に評価すべき傾向です。

本プロジェクトでは東ティモール独立問題への日本とASEAN諸国との協力を検討しました。本報告書に盛り込まれた見解は執筆者個人のものであり、当研究所の意見を必ずしも代表するものではありませんが、本報告書が地域安全保障の今後と日本による貢献のあり方を考察するうえでの一つの視点を提起することができれば、当研究所にとり大変喜ばしいことです。

最後に、本報告書作成にあたりご協力くださいました各位に対し、改めて御礼申し上げます。

平成17年 3 月

財団法人 日本国際問題研究所  
所長代行 宮川 眞喜雄

## 研究体制（敬称略）

本研究の実施に当たっては、以下の体制にて行いました。

佐渡 紀子	当研究所研究員
富田 角栄	当研究所研究助手